

Q25. 引堤を行えば、ダムは不要ではないでしょうか。

- 整備計画における目標流量を引堤より対応する場合、つまり、ダムに代わって引堤を行う場合、八代市街部において最大幅約250mの引堤が延長約3kmにわたり必要となるとともに、人吉市街部においても最大幅約270mの引堤が延長約8.8kmに及ぶこととなります。
- そのため、家屋への影響の他、特に人吉区間では地域の主要な観光資源である温泉旅館等への影響も発生することになり社会的影響が極めて大きくなります。

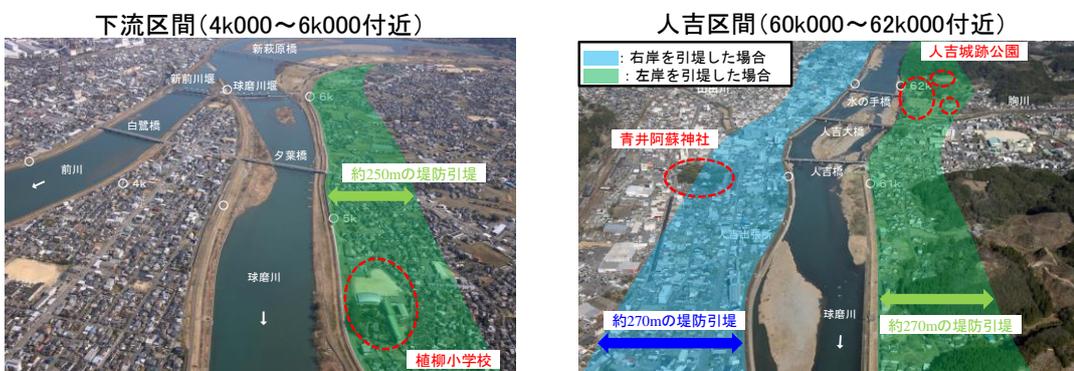


図 引堤イメージ図（流水型ダムの治水効果分を引堤にて対応した場合）

- また、引堤が困難な中流部においては、現在の計画堤防高（計画高水位+1.5m）から、更に最大約3.5mの宅地かさ上げが必要となるため、隣接する国道や県道、JR肥薩線からのアクセスなど他の社会基盤との擦り付けによる影響が想定されます。



宅地かさ上げイメージ(中流区間)

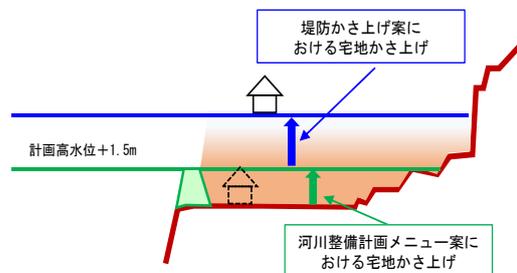


図 中流部において流水型ダムの効果分を堤防のかさ上げで対応した場合のイメージ

- なお、令和3年度第3回学識者懇談会において、河川整備計画の目標に対し、「流水型ダムを含む」河川整備計画の整備メニュー（案）と「流水型ダム以外」の複数の治水対策案を立案し、代替案比較を実施し安全度やコスト、地域社会への影響、環境への影響等の観点から評価を行っており、「流水型ダムを含む」河川整備計画（原案）の整備メニューが「最も適切」であることを確認しています。

- 川辺川の流水型ダムを含む河川整備計画の整備メニュー（案）と複数の代替案との比較評価について、ご確認したい方は[こちら](#)をご覧ください。

- なお、川辺川の流水型ダムを含む河川整備計画の整備メニュー（案）と複数の代替案との比較評価については、「令和3年度 第3回球磨川水系学識者懇談会」において、（資料-4）【「河川整備計画の整備メニュー案」の代替案比較について代替可能性検討の考え方】にて示しており、八代河川国道事務所のホームページ[「令和3年度 第3回球磨川水系学識者懇談会」](#)に掲載しています。